

高松市 商店街エリアの 愛称道路

県下随一の商店街である高松中央商店街エリアで、東西はフェリー通りと中央通りの間、南北は高松三越から田町商店街あたりまでの基盤の目のように走る通りを歩き

回って探索したところ、現地に何らかの表示のある「愛称通り」が14本見つかりました。では、商店街エリアの通りの位置関係を覚えながら見ていきましょう。



南北4本の通りのうち、愛称付きは3本

まず南北の通りは、西に「中央通り」「東に「フェリー通り」の2本。その間に「ライオン通り」と丸亀町・南新町・田町と続く商店街の2本の合せて4本。そのうち、丸亀町・南新町、田町の商店街以外は通りに愛称が付けられています。

中央通り

言うまでもなく高松市中心街の真ん中を貫くメイン道路。ネーミングは「愛称」というより、全国のおそ

フェリー通り

北に高松港のフェリー乗り場があるので、これを目印に付けられた愛称。瀬戸大橋が開通した1988年に命名されましたが、たちまち定着して今や誰もが認識する愛称道路になりました。

ライオン通

昔の資料によると当初は「ライオン通り」と表示されていたようですが、いつの間にか送り仮名の「リ」が取れて、今は「ライオン通」という表記になっています。かつて通りの中心にあった「ライオンカン」(当初は「ライオン館」という映画館が愛称の由来。その映画館に「ライオンカン」という名前が付いたのは、同館を設立した矢野サカサの矢野さんがサーカスの人気者のライオンにあやかってネーミングしたからだと伝わっています。

東西の通りは10数本、愛称通りもたくさん！

商店街エリアの東西の通りは10本以上ありますが、さすが高松の繁華街なので、多くの人が日常的に店や施設場所を説明するのに通りの名前や町名を口にしていて、認知度は十分。でも現地に行っ

ハミング通り

高松三越の南裏の細い路地に付けられた愛称が「ハミング通り」。平成11年に公募で選ばれたネーミングですが、いろいろ聞き込みをしたところ、近隣の人以外にはほとんど認知されていませんでした。表示物は、舗装された通りの2カ所に埋め込まれたタイルと、愛称が彫り込まれたタネノコみたいなオブジェが1本。あまりに控え目なので、取材班は最初、あの短くて狭い通りを3往復もしたのに見つけれませんでした。これを機にぜひかわいがってってください(笑)。

けやき通り

片原町西部商店街が昭和61年の大改装時に商店街の中にケヤキをたくさん植えたことから、イメージの通りで愛称も付けられたとのこと。ただし、「けやき通り」と表示した標識は立ってなくて、垂れ幕の中に愛称が書かれています。ほとんどの人がこの場所を「片原町」と呼んでいて、「けやき通り」という「デコ」って言われますが、一度使ってみてはどうでしょう(笑)。ちなみに編集部調べによると、「けやき通り」という愛称が付いた通りは全国に50本以上見つかりました。「さくら通り」と並んで、全国的にポピュラーな愛称通りのトップ2です。

百間町通り

繁華街によく通っている人にはおなじみの「百間町、大工町、御坊町、古馬場」と並び東西の一方通行通りですが、その中で通り名の標識が立っていたのは「百間町通り」だけ。「大工町通り」や「御坊町通り」はネット内に表記は見つかりましたが、現地に表示はありません。インバウンドもあふれる今日、エリアの通りをまとめた「統一プロモーション」なんかはどうでしょう(笑)。

古馬場 いちはち通り

丸亀町グリーンの東側からライオン通に抜ける細い路地。今回見つかった「路地系愛称通り」トップ2の一つです。もう一つは「ブッチーニの小路」。表記に「いちばち通り」と「八通り」といちはち横丁」の3種類が混在していますが、とりあえずあそこが「いちばち」ということ。ちなみに、ライオン通側の入口には表記がないので、あっちを通ると絶対気付きません。

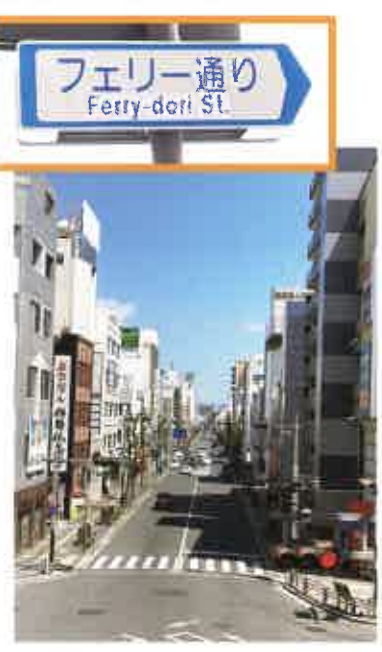
「8つの商店街」の数え方

高松中央商店街は北から兵庫町、片原町西部、片原町東部、ライオン通、丸亀町、南新町、常盤町、田町の8つの商店街の総称ですが、略図でおわりの通り、フェリー通りを挟んだ「片原町商店街」は西部と東部に分かれて2つの商店街にカウントされているけど、同じように国道や県道(フェリー通りより断然広い)を挟んで2つに分かれている「兵庫町商店街」と「田町商店街」は1つの商店街にカウントされているという、ちょっとトリッキーな数え方になっています。組合がそう分かれているからなのですが、片原町を1つに数えて「7つしかないぞ」と言う人や、田町の南に続く藤塚町の商店街を加えて8つにする人もいます。



古馬場エリアの通り表記は？

高松随一の飲み屋街、夜の繁華街によく通っている人にはすっかりおなじみの「古馬場」エリアは、北から「北古馬場」「中古馬場」「南古馬場」の細い3本の通りが東西に走っていますが、通り名を書いた標識はどこにも立っていません。探索すると、フェリー通りと中古馬場の交差点あたりに古馬場町の案内板が



鍛冶屋町に愛称道路が3つも！

丸亀町商店街の南部、商店街と中央通りの間の鍛冶屋町（かじやまち）には東西に細い通りが3本あるのですが、このコンパクトなエリアに愛称の付いた通りが3つも密集しています。



正面奥は丸亀町商店街の岩佐伝喜堂、その向かいにスタバがあります。

かじなかつ通り

鍛冶屋町の真ん中の通りで、「かじなかつ通り」。2012年頃に地元商店の皆さんが通りをPRするために付けたこのことです。

スミス通り

鍛冶屋町の南の通りに付けられた愛称は「スミス通り」。1980年代に「こんかつがき」のオーナーをはじめとする地元有志たちが命名したこと。何で「スミス」なのかというと、昔の英語で「鍛冶職人」のことを「スミス」と言っていたからです。それにしても、「鍛冶屋町」の通りの愛称を付けるのに「鍛冶屋のスミス」という言葉を見つけてきたとはさすが。瀬戸大橋開通時に「さめぎ浜街道」や「フェリー通り」の愛称が付けられて以来、高松市では通りに愛称を付けるのがちよつと流行っていたのですが、その中でも出色のネーミングセンスで、さらに通り名の表示もちゃんと他にはないオシャレなオブジェ。その設置場所もビルの2階の壁面というシニールさで（シニールすぎて気がつかない人も多いようですが）、ぜひ再注目したい物件です。

建物の名前も「スミスビル」です。



鍛冶職人のシルエットをデザインしたオブジェ。アベニュー（大通り）とストリート（通り）の表記があります。

プッチーニの小路

「スミス通り」から細い路地を北に入って、「かじなかつ通り」を渡ってさらに細い路地に入るとクネクネと高松市美術館に抜ける道に、「プッチーニの小路」という愛称が付けられています。1989年に現地の老舗店である食器の「河野」の社長が命名し、プッチーニの胸像も



設置して話題になりました。なぜ「プッチーニ」なのかというと、東京の原宿にある「プラムス」の小路（その先には「モーツァルト通り」も）にあやかってオシャレな通りを作ろうという取り組みの中で、胸像の製作者がプッチーニのご遺族と知り合っただけで許可を得て作ったという話が高松市の関係部署のSNSで紹介されていました。



ぎおん通り

商店街の南部、南新町商店街とフェリー通りの間にあるトキワ新町（通称「トキ新」）の真ん中を東西に走るのが「ぎおん通り」。「ぎおん通り」も「〇〇銀座」と並んで全国にたくさんあるポピュラーな名前ですが、あの場所の何が「祇園」なのかは諸説いずれもおぼろげです。



商店街を横切る2車線の愛称道路

美術館通り

高松市美術館の前の通り。東西はフェリー通りから県庁前通りまでの間です。この愛称も、瀬戸大橋が開通した1988年に付けられました。由来は言うまでもなく、美術館の前の道だから。

菊池寛通り

ことでん瓦町駅の前のフェリー通りから西へ向かい、中央通りを越えて中央公園の南を通過する県庁に突き当たる道が「菊池寛通り」で、ここも1988年に命名されました。かつてこの道沿いに菊池寛の生家があったことがネーミングの由来ですが、「菊池寛通り」になる前は「県庁通り」と呼ばれていました。さらに当時（70～80年代）、この通りに付いていた俗称が「Eビコ通り」。



通りの歩道に菊池寛作の戯曲「父帰る」の銅像が建っています。



丸亀町商店街から西に向けた景観宮脇書店の向こうが高松市美術館

高松市中心エリアの愛称道路

高松市中心部で商店街エリアを取り巻くエリアにある「愛称道路」は9本と、サンポートエリアに「プロムナード」と名づけられた通りが4本ありました。では、北から。

水城通り

玉藻公園の北側、レクザムホール（香川県民ホール）からホテルクレメントに突き当たるまでの短い直線道路。33号の「歩道橋特集」で紹介した、「車で東から西に向かって走ると正面に見えるクレメントの後ろにあるサンポートビルの上部がクレメントの屋上に収納されていく」という珍しい動画が撮れる、あそこです（笑）。



瀬戸大橋通り

屋島西町から西に向いて中央病院や競輪場の前を通過して、玉藻公園の南側を通過して中央通りを越えて郷東橋の手前までが「瀬戸大橋通り」となっていますが、前述の通り、中央通りの寿町交差点から郷東橋までは「さめぎ浜街道」と被っ

の高松城が堀に海水を引き込んだ「海城（うみしろ）」または「水城（みづしろ）」と呼ばれる城であることから付けられたことですが、標識のローマ字表記は「みずじろ」ではなく「みずき（Mizuki）」と書かれています。日本史通の人はご存じの通り、「水城」を「みずき」と読むのは飛鳥時代に天智天皇が唐・新羅軍の侵攻を防衛するために作った土塁のことなので高松城とは別物ですが、「みずじろどおり」や「うみじろどおり」では語呂がよくなかったのかも知れません。



県民ホール北の陸橋から見た水城通り。クレメントの後ろのサンポートビルが、出たり入ったりします（笑）。



サンポートエリアに「プロムナード」が4つ

- シィフロントプロムナード
- ハーバープロムナード
- キャッスルプロムナード
- ガーデンプロムナード

つい最近、サンポートのシンボルタワーとホテルクレメントの間の道に「サンポートガーデンプロムナード」という愛称が付いたと報道されましたが、現地の案内板を見たところ、サンポートエリアには他にも「シィフロントプロムナード」と「ハーバープロムナード」



県庁前通り

県庁の前を通る南北の道に「県庁前通り」という名前が付けられたために、それまで「県庁通り」だった道が「紛らわしい」ということで「菊池寛通り」に名称変更されたという1988年の出来事でした。



大学通り

香川大学の正門前の道。北は錦町から南は宮脇町までの本道です。



八幡通り

石清尾八幡神社から東へ、中央通りまでの直線道路。



栗林本通り

田町商店街の南から藤塚を抜けて塩江街道に延びる、アーケードのない商店街です。



栗林公園

きたもん通り

栗林公園の北門の前から北に延びる道。歩道のフェンスにこんな看板が付けられています。



観光通り

中央通りの中新町交差点から、東は御坊川を越えてすぐのレインボーロードにつながる交差点までの県道。高松市の市街地を東西に貫く2本の大通りの、南側の道です。かつてはこちが国道11号線でしたが、北側(中央公園の北角の番丁交差点側)に「11号線北バイパス」ができて後にそっちが「11号線」になり、こちが「観光通り」になりました。名前の由来は、11号線時代に「高松市街地と観光地の屋敷を結ぶ道」ということで「観光道路」と呼ばれていたこととからだそうです。「観光通り」の観光は、屋敷のこと」というワンテックは、「香川県クイズ」にぜひ(笑)。



パークロード

栗林公園の南端の交差点から東に延びる道路の、今里町から松崎町あたりに付けられた愛称。交通量も多く、施設や店もたくさんあってよく知られた道ですが、なぜかちゃんとした道路標識もなく、小さい表示板があるだけで、愛称はほとんど定着していません。だからあの辺にある店や施設の場所を説明するのに道路名がわからなくて苦労している人もいるらしいのですが、それでも「パークロード」が定着しなかったのはなぜなのでしょう？

ちなみに、「パークロード」という名前は「栗林公園につながる道」ということで名付けられたそうですが、その頃確かに標識に英語表記で「Rising Garden(栗林パーク)」と書かれていた栗林公園は、「あれは公園ではなくて庭園だ」ということで今は「Rising Garden(栗林ガーデン)」に変更されています。でも、今さら通りの愛称を「ガーデンロード」にするわけにもいかないように(笑)。



1988年に愛称が付いた道路

- 水城通り
- 県庁前通り
- 瀬戸大橋通り
- 菊池寛通り
- 美術館通り
- フェリー通り
- 大学通り
- 八幡通り

サンシャイン通り

サンメッセの前の美しい直線道路。「サ」で固めたエリアです。



ガソリン道

地域の歴史の痕跡を残す愛称道路。昭和4年に仏生山と塩江をつなぐ鉄道が開通してそこを走るガソリンエンジンの列車が「ガソリンカー」と呼ばれて親しまれていました。なぜそんな路線が敷かれたのかというと、当時の塩江は温泉郷としてもものすごく賑わっていたからです。それが時代が変わって廃線になった後、かつてのガソリンカーが走った路線跡を「ガソリン道」として復活させたというのが大まかなストーリーです。



高松市郊外の愛称道路

愛称道路



高根通り

香南町の、冠櫻神社の前を通って高松空港に向かう道。その昔、香南町に「高根(たかね)の本松」という名物木があって、それがなくなつた後、通りの名前になって残っているとのこと。ということ、この通りは「たかねどおり」ではなくて「たかねどおり」と読むそうです。



盆栽通り

鬼無の県道33号線を高松西高に上がついていく道に、年季の入った「盆栽通り」の標識が立っています。五色台に向かう地味な田舎道ですが、ほとんど山道を車で上がついていく、山の中腹辺りに新し目の標識が立っていて、そこは高松市街地や屋敷や瀬戸内海が一望できるなかなかの眺望スポット。春は桜並木になり、もう少し登ると「想い出桜」というすんなりシタレザクラの大木もあつたりして、なかなかの穴場の愛称道路です。



「空港通り」には空港通りという標識がない！

「空港通り」と言えば誰もが知る、高松市街地から高松空港に向かう国道193号線の愛称。ところが、いろんなマップには「空港通り」と書かれているし、寺井町の高架下にはここの「空港通り」ことなんですか？



通りの英語表記は何が正解？

高松市の「通り名標識」の英語表記は、中心エリアでは軒並み「dori St.」に書き換えられていましたが、郊外はほぼ「dori」のままでした。例えば「中央通り」を英語で書くとすれば、Chuo-dori Chuo-dori St. Chuo St. の3つが考えられますが、編集部では答えが出ないので学内の英語通のネルソン(アメリカ人)に聞いた。初めて日本に来たアメリカ人は、まず「Chuo-dori」は通りであることがわからない。続いて、「Chuo-dori St.」と「Chuo St.」はどちらも「St.」が付いているから通りであることがわかって「どちらも特に違和感はない」そうです。「Chuo-dori St.」は日本人には「中央通り通り」みたいに見えるけど、外国人には「中央通り」までが固有名詞だということで、「ま、いっか」とのことです(笑)。

高松市郊外の愛称道路は「レインボー」や「サンフラワー」といった認知度高い系から「ガソリン道」「盆栽通り」の歴史系、ローカルな愛称道路まで、大小合わせて20本ぐらいつかりました。

レインボーロード周辺に愛称道路が3つ

高松市郊外の愛称道路といえはまず、「レインボーロード」と「サンフラワー通り」の並行する2本が出てきますが、そこに「水と緑の回廊」なる愛称道路が被さっていることはあまり知られていないようです。3本とも標識が出ていて「レインボーロード」にある案内板には「水と緑の回廊」も含めた詳しい説明も書かれていますので、ぜひお見知りおきを。

レインボーロード

交通量も多く、人気の店もたくさんあるので認知度は抜群ですが、「レインボー通り」とか「レインボー道路」とか言う人も結構いて、正式名称はみんな結構アバウトです。通りにオプジーがはいって冬にはライトアップされたりもするので、買い物ついでに周歩いてみてはいかがでしょうか。



サンフラワー通り

こちらは愛称が「通り」ですが「サン」と「フラワー」の間に中点の「・」が入っていることはあまり知られていないようです。高松市には「サンポート」とか「サンメッセ」とか「サンクリスタル」等々、「サン」の付いた施設やエリアがたくさんありますが、「・」が入っているのはたぶんここだけ。



水と緑の回廊

レインボー・サンフラワーエリアにある4つの池と公園をぐるっと回るスクエアナートに、この愛称が付けられています。「水と緑の回廊」というのは、全国いくつかの都市で都市計画のコンテッソの一つとして設けられているようです。



坂出市の愛称道路

坂出市で見つかった「標識の立っている愛称道路」は8本。コンパクトなエリアに瀬戸大橋から久米通賢まで揃って、なかなかパワフルなラインナップです。

瀬戸大橋記念通り

坂出北一Cから両景橋の間の中央分離帯に、瀬戸大橋の工事で使われたパイイカリや灯台が設置されていて、そのエリアの道に「瀬戸大橋記念通り」という愛称が付けられました。通りは丸ごと「さぬき浜街道」に乗っかっています。

久米通賢街道

坂出市の中心を東西に貫く県道33号線の坂出市区間に付けられている愛称。久米通賢は「存じの通り」「塩田の父」と呼ばれる偉人で、聖通寺山に登る途中に銅像も建っています。

学園通り

JR坂出駅のすぐ西から南に下りていく道路。沿線に連続して坂出高、坂出二高、香川大付属中、坂出商高、坂出中が集中しているという、誰が見ても「学園通り」な道です(笑)。

駅前通り

県道33号線(久米通賢街道)から市民ホールの横を過ってJR坂出駅に突き当たる、南北の通り。同サイドの「駅前通商店街」には、表記に送り仮名の「り」がありません。

本街道

予讃線と県道33号線(久米通賢街道)の間を並行して走る道。坂出市街地のメイン道路は県道33号線ですが、それよりずっと細い道の方に「本街道」という名前が付いています。かつては「この道がメインだったのかもしれない」。

八幡通り

「一番西は八幡通り」。表示のある「八幡通り」は、高松市と坂出市に1つずつありました。近くにある坂出八幡神社が愛称の由来です。

金山通り

「高架下3連愛称道路」の一番東は「金山通り」。金山トンネルを通過する道ではありません。「金山」というのは道の南にある山の名前前で、叩くと金属音のするカンカン石(サヌカイト)が採れるので「金山」の名が付いたという説もあります。

予讃線の高架下に連なる3つの愛称道路

香風園通り

真ん中の「香風園通り」は、JR坂出駅から高架下を西に行く短い道路。道沿いに「香風園」というきれいな庭園があるので、この愛称が付きそうです。

香風園通り

高架下の「香風園通り」にある「香風園」の庭園。掲載した後で、取材班のO野と宮Gが写り込んでいることが発覚(笑)。



丸亀市の愛称道路

丸亀市の愛称道路は4本見つかりましたが、どれも愛称に歴史や文化の背景があって、ちょっとだけ勉強になります(笑)。

京極通り

丸亀市の中心市街地の主要道路のうち、丸亀城を十字に囲む道に付いた愛称が「京極通り」。「京極氏」は言わずと知れた丸亀城の藩主です。丸亀城は戦国時代に生駒氏が築城したのが最初ですが、江戸時代になつてすぐの1615年に徳川家から「二国・城令」が出て廃城になり、1643年に山崎氏が再築したけど今度は山崎氏がお家断絶となった京極氏の元で天守が完成。その後ずっと京極氏が丸亀を治めてきたということで「京極」が丸亀のシンボルワードになっているわけです。



標識は起点と終点を表すものを合わせて4パターンもありました。

いのくま通り

「猪熊弦一郎現代美術館(MI-MO CALLERY)」を挟んで、北側が「いのくま通り」、南側が「美術館通り」。隣接する道が2本あったので別々の名前が付いたと思われます。もし3本あれば、もう1本はきっと「弦一郎通り」になっていたと思います(笑)。



▲猪熊美術館。向かって右に「いのくま通り」、左に「美術館通り」が奥へ延びています。

鶏鳴通り

「京極通り」の角から多度津に向かう道にちょうど入ったところから南に入って「城乾コミュニティセンター」の前を通る道。通り名の由来になった「鶏鳴学園」は明治時代に設立された労働者の教育機関で、鶏の鳴く時刻(朝の4時~6時)に小学校教育を受けていない職人たちに勉強を教えたという、社会福祉の先駆的な施設です。



▲鶏鳴学園跡は鶏鳴通りから少し離れた所にあります。

赤門筋

総本山善通寺の東門が別名「赤門」と言われていて、そこから大通りまでの商店街が「赤門筋」と呼ばれるようになったのが明治時代。大正~戦前には電車の駅もできて大にぎわいだっそうですが、近隣に駐車場がなく、車の時代になつてすっかり寂れてしまいました。



本郷通り

「赤門筋」の終点から大通りを挟んで東に続く道。「本郷」とは地域(郷)の中心の場所を指す言葉(あるいは地名)なので、昔は総本山善通寺から赤門筋、本郷通りと続くエリアが善通寺の中心地だったのかもしれない。

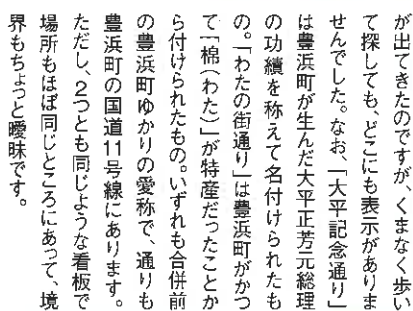
善通寺市



観音寺市の
愛称道路

大平記念通り
わたの街通り

観音寺市で表示のあった愛称道路はこの2つだけ。ウェブ上のいろんな地図やネットサイトや印刷物を調べると「駅前通り」とか「柳町通り」とか「上市七福通り」とかは「はれれ通り」等々いくつかの通り名



三木町の
愛称道路



県内にある「学園通り」が、坂出と三木町の2つ。こちらは通り沿いに三木高校があるだけです。

鴨部川アジサイ夢ロード

東かがわ市の
愛称道路



国道11号線の三本松から大内白鳥インターの入口あたりまでの南北の道路の愛称。高松市の「さぬき夢街道」に続いて県下2つ目の「夢街道」です(笑)。

さぬき市の
愛称道路

起点と終点が説明しにくいのですが、大串半島の先端に小豆島を目前にする大串自然公園の美しい芝生広場があつて、その少し手前に「さぬきワイナリー」があります。で、「ワインロード」と聞くとそのワイナリーの近くの道路かと思いきや、さらにずっとずっと手前のまだ半島にも入らない半島へ向かう道の途中にあるという、高松市の



源内通り

ことでん志度駅のすぐ近く、平賀源内記念館の前を通る細い道が「源内通り」。メディアでもガイドブックやサイトでも「源内通り」と紹介され、現地の案内板にも「源内通り」と書かれています。が、現地には「源内通り」の標識は立っておらず、初めて行った人は通りの入口に



小豆島の
愛称道路

小豆島担当の宮Gが驚くべき取材力を發揮してたくさんの愛称道路を発掘してききました。きちんとした標識が立てている通りは、土庄港周辺の「平和の群像通り」と「観光通り」と「オーリーブ通り」の3本。そして、実に昭和レトロな電柱看板型の表示がいくつも。お宝発掘的な発見のおもしろさもありそうなので、詳しい地図は載せないでおこうと思います(笑)。

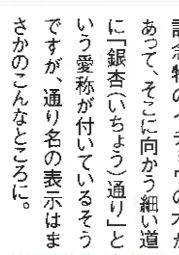


小豆島ふる里通り

「小豆島ふるさと村」の近くかと思つたら、全然違う土庄港の対岸側にありました。

銀杏通り

西光寺に町指定の天然記念物のイチヨウの木があつて、そこに向かう細い道に「銀杏(いちよう)通り」という愛称が付いているそうですが、通り名の表示はまさかのこんなところに。



サンサン通り

小豆島の東の方、小豆島町役場のさらに東あたりに「サンサン通り」という愛称が付いた道があるのですが、表示はまさか、まさかの、建物の壁に手書きされたマツプの中にあるだけでした（笑）。



近年売り出し中の「迷路の街」の
中央通り

近年売り出し中の「迷路の街」の入口に「中央通り」の表示が。県内にある表示付きの「中央通り」も高松と小豆島の2カ所だけでしたが、だいぶ様相が違います(笑)。



平和の群像通り

土庄港のそばにある「平和の群像」の前を通る道路。「平和の群像」は小豆島出身の壺井栄が書いた「二十四の瞳」の大石先生と12人の子どもたちの銅像で、「二十四の瞳」が第二次世界大戦を背景にした小説であることから「平和の群像」というタイトルが付けられています。あの銅像を見て、瞳が26あるぞ」と言った人がいましたが、大石先生の瞳はカウントしません(笑)。

オリーブ通り

オリブ公園の近くにあるのかと思つたら、そのはるか手前の土佐エリアにありました。平成元年に全国街路事業促進協議会というところから「ふるさと賞」なるものをもらっています。通りの端には「オリブ大橋」もあります。



観光通り

土庄港エリアの「平和の群像通り」につながっている道路。県内に「観光通り」は高松市と小豆島の2カ所ありました。



昭和レトロな通り表示がたくさん！

小豆島の東の方、小豆島町役場のさらに東あたりに「サンサン通り」という愛称が付いた道があるのですが、表示はまさかまさかの、建物の壁に手書きされたマップ

というわけで12ページも来てしまいましたが、「何かのために」だけ網羅的に残しておこう」というのが『インタレスト』の目的の一つでもあるのでご容赦ください。あと、よく知られているスカイラインが3つ。他に「エンジェルロード」とかありますが、そのあたりは割愛。頑張って小ネタやウンチクも織り交ぜてみました。が、話の種や何かのプロモーションのヒントにでもなれば幸いです。

